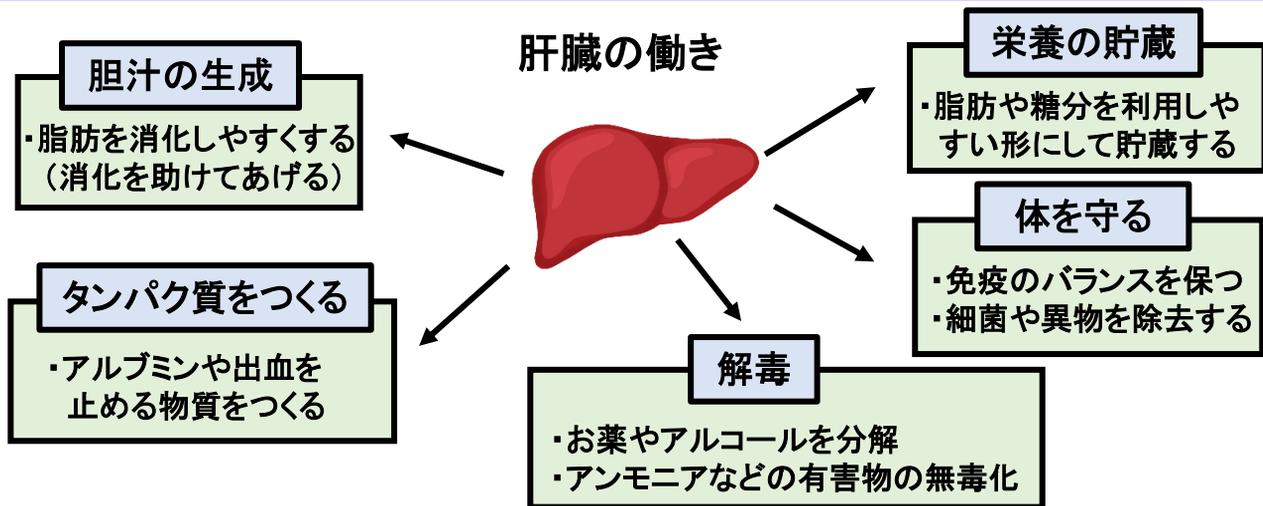


「肝臓とお薬の関係」

～肝炎のときお薬はどう変わる？～

弘前大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 横山 智士

肝臓の働き



肝臓が悪くなると何がおこる？

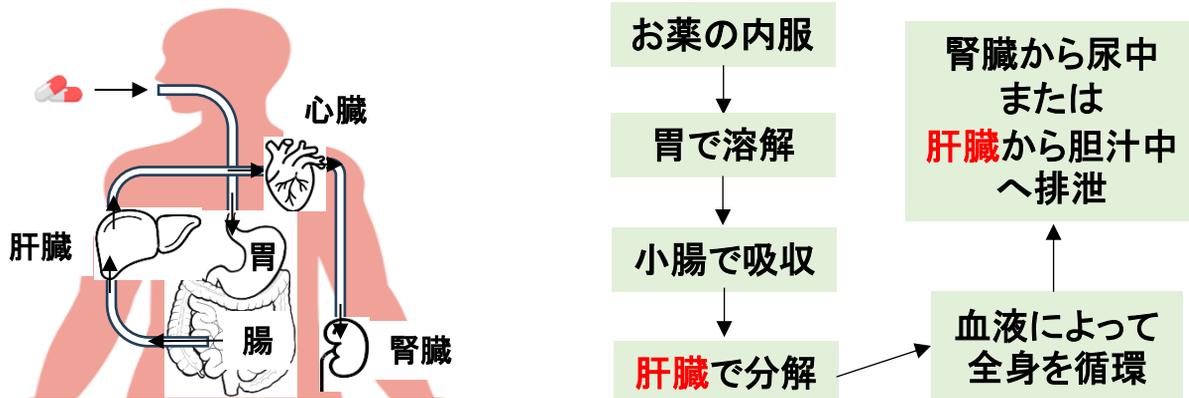
- ① **むくみ・おなかに水がたまる(腹水)**
⇒タンパク質がうまくつくれなくなるため
- ② **血糖の異常**
⇒糖分の貯蔵がうまくできなくなる
- ③ **感染症にかかりやすい**
⇒免疫力が低下するため
- ④ **出血しやすくなる**
⇒出血を止める物質をうまくつくれなくなるため
- ⑤ **意識がもうろうとする**
⇒有害なアンモニアを解毒できなくなるため



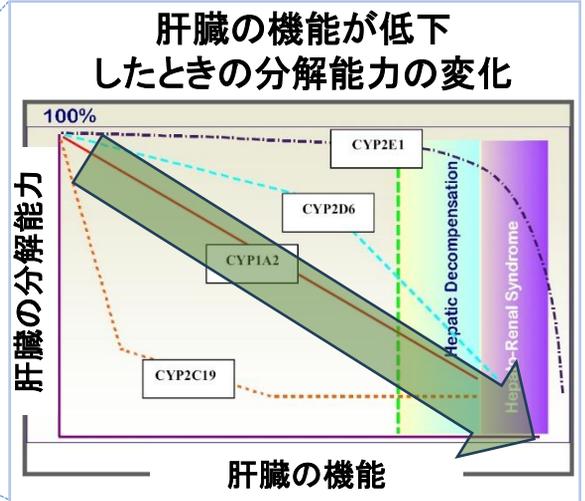
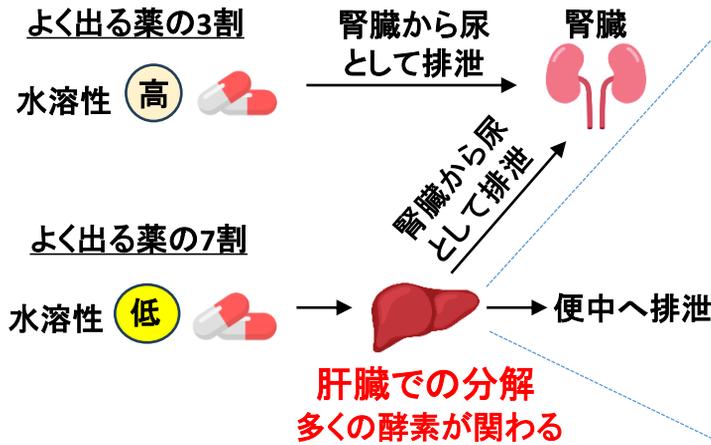
多くの合併症によってお薬の種類が増えていく



お薬の体内での動き



肝臓でのお薬の分解



肝炎のときに注意したいお薬

解熱鎮痛薬



睡眠薬・抗不安薬



抗凝固薬 (血液サラサラ薬)



血糖降下薬



脂質異常症治療薬



ここに記載してあるお薬は注意しなければいけない薬の一部であり、まだまだ注意しなければいけない薬はたくさんあります。お薬をのむときは自己判断で量を調節しないようにしなければいけません。

市販薬は大丈夫？

アセトアミノフェン入りの薬



肝機能障害を悪化させる

ロキソプロフェンやイブプロフェン入りの薬



肝機能障害や胃腸出血のリスクとなる

自己判断で市販薬を飲まずに相談してください。

まとめ

- ・肝臓はお薬の処理をしてくれる大事な臓器であるため、肝炎などによって肝臓が弱ってしまうとお薬の効き方が変わります。
- ・自己判断でお薬の量を調節したり、市販薬を飲まずに相談してください。
- ・肝炎は早期発見・早期治療により進行を食い止めることが副作用を防ぐ点においても重要です。

●●●● 肝疾患に関するご相談・ご質問は 肝疾患相談センターへ ●●●●

弘前大学医学部附属病院 〒036-8563 弘前市本町53 TEL 0172-33-51111 内線 4020